

## 平成28年度第5回草津市健幸都市づくり推進委員会議事録

日 時： 平成29年3月23日（木）13時30分～15時20分

場 所： 草津市役所2階特大会議室（ステージ側）

出席委員： 三浦委員、藤田委員、塚口委員、河前委員、則武委員、橋口委員、  
北村委員、神門委員、喜田委員、小枝委員、関川委員、廣田委員、  
吉川委員、寺尾委員

欠席委員： 小沢委員、梅木委員、樋口委員、福井委員、村上委員、五十嵐委員

事務局： 橋川市長

【健康福祉部】 富安理事、西総括副部長、岡本副部長、小川副部長

【都市計画課】 松尾課長 【商工観光労政課】 角課長

【健康福祉政策課】 織田参事、野々村専門員

【健康増進課】 田中課長、井上専門員

傍聴者： 2名

### 1. 開会

---

#### 【橋川市長】

年度末の大変お忙しいところ御出席をいただき、ありがとうございます。

健幸都市基本計画につきましては、昨年12月15日に委員会へ諮問させていただき、12月20日に答申をいただきました。その結果に基づきパブリックコメントを実施したほか、タウンミーティングを開催し、市民の皆様から御意見をいただきました。本日はそれらの意見を反映させた最終案について、御審議をお願いします。

また、2月20日には、健幸都市連合が発足しました。全国で80の自治体が加入し、滋賀県では草津市のみが加入しています。健幸都市が注目されるなか、29年度より本計画に基づく健幸都市づくりを、市をあげて進めていきます。

4月には草津川跡地公園がオープンします。市民の皆様の健幸づくりの拠点として、多方面から多くの方にお越しいただき、健康になって帰っていただきたいと思っています。本日も、ご審議の程よろしくをお願いします。

#### 【事務局】

<草津市市民参加条例施行規則に基づき、傍聴者について報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

### 2. 議事

---

1) 草津市健幸都市基本計画（案）に対するパブリックコメント等の結果について

#### 【事務局】

<資料1～3に基づき説明>

#### 【主な質疑・意見】

#### 【委員】

喫煙等に関する意見への回答に、若い世代や働く世代が取り組める事業の実施とあ

るが、喫煙してからやめるのは難しい。大学の新生へへの教育が効果的ではないか。

**【委員長】**

近年、小学・中学・高校生に対する教育も重要視されている。大学生への教育は各大学でも取り組まれていると思うが、喫煙対策は健康くさつ21にも定められているものであり、市でも引き続き取り組んでいただきたい。

**【委員】**

高齢者から、外出しようと思うが交通手段がないという声を聞く。草津市のまめバスは、非常に多くのルートがあるものの路線バスと似ているため、ルートから遠い人は交通手段がない。地域支え合い運送は、学区のまちづくり協議会や社会福祉協議会が実施して良い効果が出ているということだが、今後、事業展開していくのか。

**【事務局】**

地域支え合い運送については、平成29年度に新たに1学区が希望されており、拡大する見込みである。送迎支援のボランティアをどう集めるかが課題ではあるが、今後も広めていければと考えている。

**【委員】**

受動喫煙について、三次喫煙まで言及した質問をされているが、二次喫煙に対する回答に留められている。今後の方向としては記載の取組を実施していくということか。

**【事務局】**

現在、たばこ規制について国で検討が進められており、その動向をみながら検討していきたい。

**【委員】**

空き家対策や草津川跡地の整備、駅前の商業施設等の話があるが、駅前と草津川跡地公園では距離があるので、バスを周遊させる等の案はないのか。

**【事務局】**

中心市街地活性化計画では回遊性を求めており、個別の店舗やイベントだけが盛り上がるのではなく、商店街を含め、駅前を歩いて回っていただけるような魅力を持ったまちづくりを計画している。

**【委員】**

駅前は空き家ばかりであるが、活性化について具体的な計画があるのか。歩いて回るためには途切れないまちづくりが必要である。

**【事務局】**

店舗誘致等により、今後も活性化に努めていきたい。

**【委員長】**

医療費の「ワースト1」という表現に対する意見についてはいかがか。

**【委員】**

草津市には市立病院はないが、草津総合病院等の大きな病院が市の医療を担っている。ベッド数の多い病院があるために医療費が高くなっているのかと思うが、大きな病院があることは、市民としては恵まれているという考え方もあると思う。

**【委員長】**

需要と供給についても総合的に考えるべき事項かと思われる。

## 2) 草津市健幸都市基本計画の全体目標について

### 【事務局】

＜資料4に基づき説明＞

### 【主な質疑・意見】

#### 【委員】

「健幸なまちだと思いますか」と聞かれても、ほとんどの市民は何を答えたらよいかかわからないのではないか。このアンケートは現実的な数字をよめるのか。6年後に60%を目指すというが、高齢者が増える中、どのような取組で60%を達成できると考えているのかその根拠を示してほしい。

#### 【事務局】

全体目標の内容については、前回委員会で提示し、委員の皆様のご理解をいただいたところである。平成28年度の市民意識調査の結果が出ていなかったため、数値は未定としていた。全体目標の内容を変更することは、前回の協議を根底から覆すことになるためご理解をいただきたい。本日は、現状「どちらともいえない」と答えた方のうち、半分の方を積極的的回答にもっていきたいと考えている点について、ご意見をいただいているところである。

#### 【委員長】

市民意識調査において「健幸なまち」をどのように定義しているのか。

#### 【事務局】

基本計画の2ページと同様の定義を注釈として入れている。

#### 【委員長】

基本計画25ページにも定義を注釈で挿入いただきたい。

#### 【委員】

文化芸術の振興について、他市では市民会館等で様々な催しがあり、転入者も増えているが、草津市は活動がほとんどない。市には目玉となるものや誇れるものがないが、何か市で画策しているのか。

#### 【事務局】

草津市にはアミカホールやクレアホールがあり、様々な事業が行われている。来年度には、文化振興に係る条例や計画等が策定される予定であり、社会参加や生きがいづくりの観点で健幸都市づくりとも関連していくものである。また、草津市には目玉がないという御指摘であるが、「健幸都市」を掲げて市の総合政策として進めている自治体は県内でも草津市だけであり、この取組自体が目玉と言える。今後も様々な企業・団体等と連携しながら、さらに魅力的なまちへと変えていきたいと考えている。

#### 【委員】

草津は歴史があり魅力的なまちだと思うが、転入者が増えているという視点がまちづくりの企画に欠けているように感じる。伝統のあるものを新しい人達にどう伝え、展開していくかを考えれば、より魅力あるまちになるのではないか。転入者が地域に入っていけるような方法を考えていかないといけない。当計画には転入者の仲間づくりや活躍について書かれていないので、60%の目標はおかしいと思う。

【委員】

60%の目標は、少し消極的にみえる。70%くらいでもよいのではないか。私が所属する市民団体としても草津市を良くしていきたいと思っており、また当委員会の各委員が所属する団体でも、もっと頑張ろうという気持ちになればよいと思う。

【事務局】

町内会の活動に限らず、高齢者や妊娠中の方等が、外に出て様々な活動に参加する機会やきっかけをどうつくっていくかは今後の大きな課題であり、健幸都市づくりを進めていくうえでも非常に重要だと考えている。行政をあげて考えていかなければならないことであり、あわせて委員の皆様のお力添えもお願いしたいところである。

60%という目標値については、事務局としては前向きな姿勢を示した目標だと考えている。委員の皆様にもご協力いただきながら、この目標を達成していきたい。

【委員】

草津市は住みよいまちだと思っている。こういった目標値をみるといつも、理想は100%であると思っている。目標値は60%でよいと思うが、気持ちの部分では100%を目指して協力して達成できたらと思う。

【委員長】

最終目標は100%で、中間目標として60%という考え方でよいのではないか。

【委員】

先程イベント等についての話が出たが、草津市は様々な取組をしている。イベントの場所も多様で、民間主体の行事もたくさんある。ボランティア活動なども熱心に展開されており、さらに盛り上げていかなければならないと感じている。マンションにお住まいの方や高齢者等については、ちょっとした声掛けで参加してみようと思ってもらえるかもしれないので、市民同士が声掛けをできるようなまちにしていきたい。100%とはいかないかもしれないが、目標を高くもって進めていただきたい。

【委員】

計画には、基本施策に仲間づくりや交流の取組について書かれているが、実行面ではがんばらないといけない。守山市では自転車に力を入れているが、草津市でも、例えばノルディックウォークと健康バンドなど、目玉をつくっていかねばならないと思っている。目標値については、まずは60%でよいのではないかとと思う。

【委員】

数値目標については、現実的な、ある程度は実現可能な数値であることが大事だと思う。100%という高い目標を目指すことも大事だが、現実とかけ離れてしまうと気持ちが離れてしまうことも考えられる。具体的な根拠があるので、60%は良いかと思う。今回の計画の中で素晴らしいと感じる点は、明確に担当部署が記載されていること。本気で取り組んでいこうというものがみえる。市民の方にも手に取ってみたいと思う。町内会に加入していないマンションの方等は情報にアクセスする手段が限られている。この計画の内容が市民に伝わるようにしていただきたい。

チェック体制でPDCAサイクルを回していく点について、まちづくり協議会や関係機関等と連携して進められれば、市民の満足度も上がっていくのではないかとと思う。

**【委員】**

マンションを選択される理由として、人に干渉されたくないからという人もいる。干渉されたくない人にまで干渉するのは越権行為である。草津市はマンションが増えているため、そういうことも念頭に入れなければならないと思う。

**【委員長】**

基本計画は全戸配布できないのか。目標値の周知はどのようにする予定か。

**【事務局】**

計画の全戸配布は難しいが、関係機関等に設置する予定である。計画本編と概要版は、ホームページからダウンロードしていただくことが可能である。今後、広報くさつの特集記事で健幸都市づくりの取組内容を紹介するほか、健幸都市に関連する事業の記事には、健幸都市くさつのロゴマークを付けて分かるようにする予定である。

**【委員長】**

今回は中間目標ということで、達成可能な、現実的なラインである60%とさせていただきます。

### 3. その他

---

**【事務局】**

<資料5～6に基づき説明>

**【主な質疑・意見】**

**【委員】**

中学校給食について、現在はお弁当だが、時間が短くてゆっくり食べられないと聞く。給食当番が配膳するとなると、さらに時間が無くなる。時間の配分等も含めて検討いただきたい。

**【事務局】**

中学校給食については教育委員会で検討を進めているため、いただいたご意見を伝えさせていただきます。

**【委員】**

免許証の自主返還について、何か特典がなければ促進されないと思う。健幸づくりにからむようなものは何か考えているのか。

**【事務局】**

健幸づくりにからむものではないが、県では自主返納される方に証明書が発行され、証明書をお店で提示すると割引が受けられる制度がある。市では、高齢者に接する機会が多いケアマネジャー等が集まる会議で、自主返納の仕組みや制度を説明し、高齢者への案内につなげてもらっている。

**【委員】**

他市では、バスや地下鉄の無料化等が計画されているようだが、草津市では計画はないのか。

**【事務局】**

路線バスは割引制度の中に含まれているが、まめバスはもともと低額であるので、それ以上のものはないかと思う。ご意見は担当課へお伝えする。

**【委員】**

返納するのは勇気がいるので、市から返納された方に対してタクシー券を出すなど、積極的な施策がされなければ返納率が伸びないのではないかと考えている。

**【委員長】**

健幸都市連合への加盟は、滋賀県からは草津市だけとなっている。一覧には80の自治体があるが、全ての自治体で計画を立てているわけではなく、草津市のような規模で取り組んでいる自治体は少ないと聞いているが、それでよかったか。

**【事務局】**

基本計画を策定して取組を進めている自治体はまだ少ない。

**4. 閉会**

---

**【委員長】**

今年度は5回にわたり、熱の入ったご意見をいただき感謝申し上げます。皆さんのご意見が市の施策に反映されると信じている。これから当計画が広く公開され、来年度以降、随時評価をしていくことになる。草津市が全国的に有名になるように、市の方にも頑張っていたきたい。

**【事務局】**

本年度、5回にわたり議論いただき、感謝申し上げます。当計画はこれまで草津市として行ってきた健康福祉施策の枠を越えて、都市計画や産業振興分野とも連携しながら、全市的に取り組むために策定した計画である。来年度から本格的に、計画に基づき様々な事業を実施していくこととなる。目標値については、目標としては60%とさせていただくが、気持ちとしては100%を目指してやっていきたいと考えている。来年度以降、委員会において計画の進捗管理をお願いしたいと考えており、目標を含め施策についても整理し、ご意見いただきたい。

計画を進めていくにあたり、委員の皆さんを含め各種団体等、様々なお力添えをいただきながら計画を進めていければと思う。